令和３年度第１期　交流促進パワーアップ事業　採択一覧

番号	市区分	助成回数	団　体　名	事 業 名	主行事実施時期	事 業 内 容	採択額
						申請なし	
							0

令和３年度第２期　交流促進パワーアップ事業　採択一覧

番号	市区分	助成回数	団　体　名	事 業 名	主行事実施時期	事 業 内 容	採択額
1	丹波	初	ファーム市ノ貝	有機農業講演会	4月～8月	丹波市では1975年から有機農業の取組が始まったが、多くの生産者は従来型の農業を行っており、丹波市が有機農産物の一大生産地になり得ていない。また、新規就農者を増やす活動や有機農業の発展に取り組む活動が市島町等で行われているが、まだまだその数は少ない。そこで「有機農業」に関する都市部住民を含めたオンライン講演会（４回）、現地視察（１回）を開催し、有機農業の生産者増加と都市部住民との交流を目指す。	59,000
2	丹波	初	市ノ貝自治会	登山道の整備・農業振興等による集落の活性化	通年	市ノ貝地区は、人口減少と高齢化が進み、市島町竹田地区（18地区）の中でも2番目に高齢化が進んでいる。今後益々高齢化が進むことが予測され、地元の農地をどのようにして守って行くかを考える必要がある。このため、地区における稲作の協同経営や有機野菜栽培、山林資源の活用等を通じて、地域の活性化を図る。具体的には、化学肥料や農薬を使用しない土作りを行う。また、地域内にある神社、祠を結ぶ登山道整備を行うとともに春と秋にイベントを開催して、都市部等からの観光客との交流を図る。	144,000
3	丹波	初	いるかこもれび助産院丹波ファーム	丹波親子ファーム　田舎体験	4月～10月	高齢化・週末農業従事者の増加により、未使用の農地が増え、日々農地を管理することができない状況が継続していることから、県内または関西圏に在住で年間を通じて農業や田舎暮らしを体験したい方を対象に、未使用農地での農業体験や田舎暮らし体験、農業体験を行う田畑での一日キャンプ体験を通じて、地域に定住していない人々とのコミュニティを形成するとともに地域ぐるみで農地を管理する仕組みへとつなげていく。	300,000
4	丹波	初	水西農会	たんたけきずなパワーアップ事業 汗かいて村の魅力再発見！うまいもの・きずな	4月～11月	丹波市竹田地区の中心に位置する水西地域において、休耕田３反を整備・利用し、農会と自治会・子供会が協働して丹波市推奨作物「丹波黒大豆」を栽培し、収穫した「丹波黒大豆」で１０月下旬に収穫祭を実施する。収穫余剰品は、JAや「元町マルシェ」を通して販売し、「黒豆」生産から販売まで一貫してできることをめざすとともに、農業経営ができることをめざす。	252,000
5	丹波	初	野上野まちづくり協議会	丹波特産品を活用した交流	4月～2月	若い世代を中心に丹波特産品（栗、黒豆、小豆）の文化、歴史、ブランド価値が薄れてきているため、失いつつある地域資源の有効活用を行い、丹波特産品をPRして丹波地域の魅力を知ってもらう必要がある。そこで、都市部住民を対象に放棄田を活用した特別栽培米「春日庄米」の田植え・稲刈り交流事業を実施するとともに、特産品（栗、黒豆、小豆）を活用した料理及びお菓子作りを通じた食育（体験、交流、学び）を実施する。	272,000
6	丹波	初	たんばDE第九実行委員会	「３０人の第九」演奏会	4月～11月	丹波地域においては、気軽に本格的な生のクラシック演奏を楽しむ機会が少なくなっており、交流の機会も減っている。また、指導者の減少とともに合唱や楽器を楽しむ若者が近年減少している。そこでプロのオーケストラメンバーを招き、幅広く地元の合唱メンバーを公募して、ベートーヴェン交響曲第九番「合唱付き」の演奏及びその他市民のためのコンサートを11月28日（日）に丹波の森公苑大ホールにて開催する。	500,000
7	丹波篠山	初	手話カフェ＠ささやま	手話通訳付き　食と健康のオンライン講座	4月～11月	コロナの影響で、ろう者の方は対面での機会が減り、オンラインのイベント等が増えているが、手話通訳付きではないため参加が難しい現状がある。このため、ろう者の方が気軽に参加できるオンラインの健康講座を開催することで、在宅が増えている中での食や健康の見直しを促進することができる。また、手話に関心のある市民の方、手話には興味がないが健康や食に興味のある方に参加してもらうことで、自然と手話やろう者の方との交流の機会を生むことができる。	36,000
8	丹波篠山	2	（特非）里地里山問題研究所	おとわの森子育てファミリーフィールド	通年	丹波篠山市味間地区は住宅地が多く子育て世代が多く居住しており、地区内では、特定非営利活動法人里地里山問題研究所が「おとわの森子育てママフィールド～プティプリ～」を運営し、子育てママを対象とした室内プログラム中心に地域の子育て支援を実施している。新たに、休日を利用して子どもと一緒に屋外でものづくりをしながら、自然や森に関心を持ち、その資源活用や維持に関わるプログラムを実施し、丹波篠山市の豊かな自然環境を活かした子育て支援を行う。	400,000
9	丹波篠山	初	丹波地域シニアICT委員会	地域コミュニケーション促進事業	7月～3月	コロナ禍で地域コミュニティにおいてもICTによるコミュニケーションの利用が多くなっていることから、丹波篠山市におけるICTを用いた地域コミュニケーションを確立するため、市内の一部自治会をモデルとしてLINE公式アカウントを導入し、各世帯との双方向のコミュニケーションをテーマとしたセミナーを開催する。また、WEBサイトを作成し、当該事業の取り組みの周知や事例の発信、マニュアルの掲載を行うほか、モデルとなった自治会での成果を踏まえ、市内全自治会に導入するまでのロードマップを作成して、市への提言を行う。	300,000
10	丹波	初	たんば・ベトナム交流促進委員会	たんば・ベトナム交流促進	通年	丹波地域在住の外国人で最も多いベトナム人の大半が、企業が用意した寮で生活をしており、地元との交流が少ない状況にある。その上で、コロナ禍の影響により、交流ができない状況が継続している。そこで、ベトナムの衣装を着たダンスやHip-Hopダンス、ミュージックバンドによる演奏・合唱を通じてベトナム人との交流を図る。これらの交流は極力オンラインを活用するとともに、地元のFM番組で交流のPRや報告等を行う。	250,000
11	丹波	初	NPO法人たんば子ども若者支援ネットワークえん	不登校ひきこもり子ども若者支援 たんばフリースクール開設	6月～3月	学校児童生徒数は減少しているにもかかわらず、不登校の子どもの数は減少していない。このため、何らかの事情で学校に行けなくなってしまった子どもや若者たちが、安心して集える居場所や学びの場が必要である。そこで、丹波地域においてフリースクールを立ち上げ、「不登校ひきこもりサポーター養成講座」や不登校親の会、ミニ学習会、相談会等を開催する。	380,000
12	丹波	初	佐治倶楽部	まちの空きスペース活用と社会実験による既存商店街活性化	6月～3月	青垣町佐治地域の既存商店街の活力減少に伴い、まちに空きスペース（空き家、空き地、空き店舗等）が増加してきたことから、イベントを活用して空き家を使ったチャレンジショップの社会実験を行うほか、軒下スペースなどの活用による屋外空間の魅力アップや軒下古本市などの開催により、地域の魅力向上につながることを目指す。	400,000
	丹波篠山（３） 丹波（９）			Ｈ２７年度以降の助成回数　初回（11）、２回目（１）			3,293,000

令和３年度第３期　交流促進パワーアップ事業　採択一覧

番号	市区分	助成回数	団　体　名	事 業 名	主行事実施時期	事 業 内 容	採択額
1	丹波篠山	2	丹波篠山市民センターまつり実行委員会	市民フェスティバル～わたしたちのSDGS	１月	2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すため、国連はSDGｓ（持続可能な開発目標）を掲げている。丹波篠山市では高齢化している地域も多く、地域活動としてSDGｓの目標達成にどのように関わっていけばよいのか、わからない現状にある。そこで、市民フェスティバルにおいて、従来通りの市民活動の発表の場を創出するとともに、市民団体が日常的に活動していることをSDGｓにあてはめて考える。「持続可能な活動とは」を考えるとともに、身の回りにある身近な活動をSDGｓにより近づけるノウハウをセミナーで学び、今後の活動につなげる。	220,000
2	丹波篠山	初	篠山まちなみ未來展運営委員会	妻入商家　クラフトＡｎｄアート丹波篠山「いらか」	10月	令和３年度春、河原町妻入商家群は、無電柱化され、城下町の風情が残るその景観が新しく生まれ変わった。コロナ禍で盛大なお披露の機会とはいかなくなったものの、この記念の年に、地元の方々をはじめ、旅気分で新しい景観となった河原町に訪れていただくため、期間中各週末に、作家展覧会を繰り返し趣向を変えて開催することで、密にならずに分散させて集客する。また、近年移住してきた作家や新規のお店を紹介するとともに、作家とその家族が情報交換や意見交換を行う機会とし、親睦を深め、充実した移住生活のスタートを応援する。	500,000
3	丹波篠山	初	「草やまの草むら」実行委員会	「草やまの草むら（森のある暮らしを探究するサークル）」事業	９月～１月	丹波篠山市は、森林率約75%と自然豊かな地域であり、かつては木材や食料、燃料など、山の恵みを活用した暮らしがあった。しかし、現在では山と人々の距離が離れ、整備放棄された森が増え、人々の生活にも影響を及ぼしている。そこで、西紀北地区をフィールドに、森の資源・恵みを活用したワークショップを計６回程度開催することで、里山に関わる人材を育成し、地域の貴重な里山文化を伝承するとともに、新たな地域資源を構築する。	320,000
4	丹波	初	高校生が創る丹波の未来への懸け橋プロジェクト	集まれ！スイーツ好き　世界一のモンブランを作ろう	12月	丹波市内の３県立高校の有志が中心となり、同時にケーキ（モンブラン）を食べた人の数によりギネス記録の樹立を目指す。新型コロナウイルス感染拡大状況等を鑑み、オンラインによるイベントとし、丹波栗や丹波の素材を用いて洋菓子「モンブラン」を各家庭で作り、100人以上が同時に食べる。市民から参加者を募り市民参加型のイベントとすることで、コロナ禍の暗い雰囲気に風穴を開け、様々な世代の人々の交流の場とする。また、若者の主体的な活動を地域が応援することで、若者が地域に愛着を持ち、クリエイティブで活気のある活動が生まれ続ける土壌へとつなげる。	500,000
	丹波篠山（３） 丹波（１）			Ｈ２７年度以降の助成回数　初回（３）、２回目（１）			1,540,000